

第11回(2020年度)助成研究成果表彰 表彰式・受賞記念講演会

助成研究成果表彰は、優れた成果をあげた助成研究者に与えられるもので、本年度も13名の応募があり、技術委員会による厳正な審査により各賞の候補者を選考し、5月28日開催の第41回通常理事会において3名の方の受賞が決定いたしました。

9月29日に鉄鋼会館において表彰式ならびに受賞記念講演会が行われました。当日は鈴木理事長の挨拶、畠山技術委員長の見解の後、理事長よりステンレス製の表彰状と副賞が受賞者に授与され、引き続き受賞者による受賞記念講演が行われました。

【各賞の受賞者】

1. 理事長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩を通して鉄鋼業や社会に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	今中 信人	所属	大阪大学大学院工学研究科・教授
助成研究期間	3年間 : 2015年11月~2018年10月		
研究テーマ	高性能環境触媒を用いた一酸化炭素ガスの迅速検知並びに安全浄化		
研究成果	氏は、低温作動可能な触媒を創製し、有毒な一酸化炭素ガスを従来よりも数百度低い温度下で迅速かつ選択的に定量できる接触燃焼式センサを開発した。小型化により、鉄鋼業のみならず一般環境における一酸化炭素中毒の事故防止にも貢献すると期待され、汎用性と実用性の極めて高い研究成果である。		

2. 技術委員長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩に、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた若手助成研究者に贈られる。		
氏名	伊藤 洋介	所属	名古屋工業大学大学院社会工学専攻・准教授
助成研究期間	2年間 : 2017年11月~2019年10月		
研究テーマ	電気炉酸化スラグを骨材としたモルタルの電波吸収性能の向上		
研究成果	氏は、電気炉酸化スラグを活用したモルタルの電波吸収特性を利用し、安価で迅速に融雪するシステムを提案した。緻密な理論解析からスラグモルタルによる電波吸収体の設計手法も明らかにしており、鉄鋼スラグの新たな用途拡大にもつながる実用性に富んだ研究成果である。		

3. 鉄鋼技術賞

賞の性格	鉄鋼環境技術の進歩を通して鉄鋼業に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	埜上 洋	所属	東北大学多元物質科学研究所・教授
助成研究期間	3年間 : 2014年11月~2017年10月		
研究テーマ	低炭素操業下の高炉融着帯の溶融・流動制御技術開発		
研究成果	氏は、高炉における炭素使用量の低減を目的に、融着充填層の空隙構造や粒子層変形を考慮した熱流動や粒子間伝熱の解析手法を開発し、高炉融着帯の特性を定量的に評価することを可能にした。二酸化炭素排出量削減に資する高炉の低炭素安定操業の実現に大きく貢献する研究成果である。		

【 表彰式ならびに記念講演会の様子 】



表彰式記念撮影 (感染症拡大防止のため、個別撮影を合成)

(左から、鈴木理事長・埜上教授・今中教授・伊藤准教授・畠山技術委員長)

表彰式研究成果



【理事長賞】 今中信人 大阪大学教授 【技術委員長賞】 伊藤洋介 名古屋工業大学准教授 【鉄鋼技術賞】 埜上洋 東北大学教授



記念講演会 聴講風景